

市民公開講座Q&A

岐阜市民病院における がん医療の取り組み

Q1

がん検診はどのくらい
の頻度で受けるべきで
しょうか？

がんは長い年月をかけて進行する病気です。自覚症状が出るころには進行していることが多いため、早期発見のためには年1回の定期検診が大切です。特に、胃・大腸・肺・乳・子宮頸がんの5つは国が推奨するがん検診が整備されています。コロナ禍で受診率が低下しましたが、検診を続けることで早期発見・早期治療につながります。

Q2

がん検診には不利益もあると聞きますが、受けた方がよいですか？

確かに検査によるわずかな被ばくや、内視鏡での出血、がんの疑いを告げられる精神的な負担などのデメリットがあります。しかし、それらを上回る早期発見のメリットがはるかに大きいのが現実です。検診によって命を救われる方が多くおられますので、正しい理解のもと積極的に受診することをお勧めします。

Q3

がんは遺伝するのですか？

ほとんどのがんは、加齢や生活習慣によって起こる「後天的ながん」です。遺伝性がんは全体の5〜10%程度とされています。ただし、BRCA1などの遺伝子変異を持つと、乳がんや卵巣がんのリスクが高まります。岐阜市民病院では、がんゲノム検査を行い、遺伝子レベルで原因を調べることが可能です。遺伝が心配な方は、専門の遺伝カウンセリングを受けるよいでしょう。

Q4

「がんゲノム医療」や「ロボット手術」といった最新医療は、どんな特徴がありますか？

がんゲノム医療とは、がん細胞の遺伝子を詳しく調べ、その異常に応じた最適な薬や治療法を選ぶ個別化医療です。従来の臓器ごとの治療から、遺伝子ごとの治療へと進化しています。またロボット手術は、医師がロボットアームを

Q5

がんと診断された後、どのような支援を受けられますか？

操作して行う高精度・低侵襲手術で、傷が小さく出血が少ないのが特徴です。岐阜市民病院では胃がん、大腸がん、前立腺がん、肺がん、婦人科疾患で積極的に導入し、患者さんの早期回復につなげています。

岐阜市民病院では、がん相談支援センターや緩和ケアチームを中心に、就労支援・妊孕性温存・外見ケア・在宅療養支援など幅広いサポートを行っています。治療中も「その人らしい生活」を続けられるように、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフなどが連携し、チーム医療で患者さんご家族を支えています。がんは治療だけでなく、生活全体で向き合う時代です。地域と医療機関が協力しながら、誰もが安心して治療を受けられる体制づくりを進めています。

今月の先生

消化器外科、一般外科、内視鏡外科

奥村 直樹

○役職

院長補佐
がんセンター長
医療情報部長

日本内視鏡外科技術認定医

日本消化管学会胃腸科指導医・専門医
日本乳癌学会認定医

○卒業年、主な職歴

平成8年岐阜大学医学部卒
燕労災病院、岐阜大学医学部附属病院臨床講師
米国テキサス大学留学
韓国ヨンセイ大学留学

○主な資格、認定

日本外科学会指導医・専門医・認定医
日本消化器外科学会指導医・専門医・
消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

定期開催の「岐阜市民病院公開講座」の講演動画は、岐阜市公式YouTubeチャンネルで公開中！
奥村 直樹 医師 他による「岐阜市民病院におけるがん医療の取り組み」に関する動画を今公開しています。
詳しくは、岐阜市民病院ホームページをご確認ください。



岐阜市民病院
ホームページ

